

令和3年度山口市美術展覧会講評

大 賞

「願う」

村田 賢二



老人が両手を合わせ一心に祈る情景が描かれている。老人の上には戯れ遊ぶ人々が幻想的に描き込まれ、おそらくこの老人の子供や孫たちの日常の風景を写したものと思われる。老人の祈る姿は、静逸な趣をたたえつつ、しわの入った手の表現からは何か力強さが伝わってくる。確かな描写力と巧みな構成に支えられ、子や孫へ命のバトンを渡し、さらなる平和と幸福な未来への願いが強く感じられる作品となっている。

(後藤 修)

◆ 総評

今回の展覧会は、16歳から87歳の幅広い年齢層から応募があり、創作方法も従来のジャンルからジャンル横断的な表現まで、多様なアプローチの力作が出品された。各審査員は専門分野を越えた審美眼が試されつつ、審査は厳正に進められた。長引くコロナ禍において、出品数の減少傾向はみられるものの、創作された作品の質は一定の水準を保っている。

審査では、明瞭なメッセージ性や世界観が示されていること、新たなアプローチに挑戦している創作姿勢が感じられる作品が評価された。奇抜なことではなく、日々の積み重ねから発見し創出されたものである。

評価を進める中で、作品の多様化により応募部門や出品規格についても議論された。時代や状況にあわせた対応が、展覧会としても直近の課題となっている。

本展覧会が、創作すること、鑑賞することのきっかけとなり、作品が共有されることにより、日々の暮らしや気持ちが豊かになることを今後も期待したい。

(審査委員長 倉田 研治)

(審査員)

生田 照代	梅光学院大学非常勤講師
上原 一明	山口大学教育学部教授
倉田 研治	山口県立大学国際文化学部准教授
後藤 修	山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監兼学芸課長
藪田 淳子	下関市立美術館副主任

(五十音順・敬称略)

準大賞

「廻る」^{まわ}

大塚 大輔



悲しげなロボットが、水面に浮かび流されているのであろうか？胸に両手をあて祈るかのようなポーズは、静寂な空気感を感じさせる。ミレーの「オフィーリア」を連想させるこの作品は、彫刻的造形力と細部にいたる作りこみの確かさによって、見る者を異空間へ誘ってくれる。自然破壊によっていずれ我々の環境に悪影響が廻って来る事を示唆しているかのようなのだ。現代社会の問題点を FRP 彫刻で表現した秀作である。

(上原 一明)

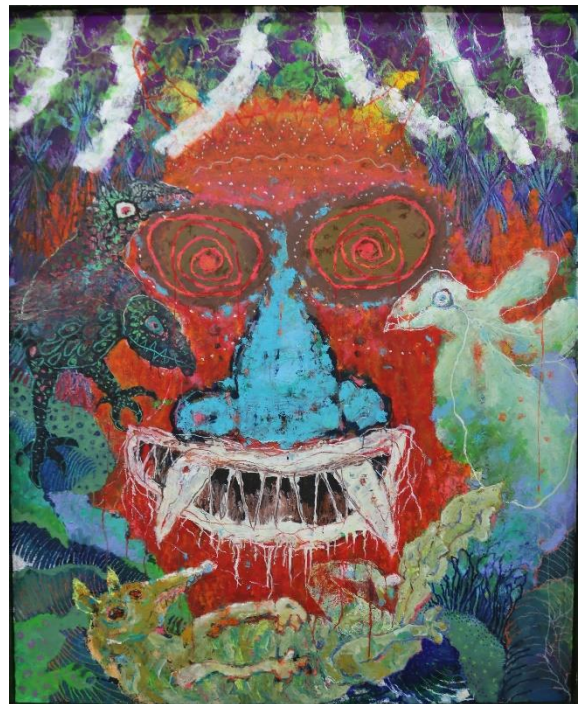
山口市教育委員会賞

「森の掟」^{おきて}

井岡 義朋

様々な植物の繁茂する森の中、二羽の鳥の間に巨大な鬼の顔が浮かび上がり、迷い込んだキツネを圧倒している。プリミティブな形象、派手な色彩と自由に伸びる線、かすれるように厚く塗られたマチエールによって、混沌とした世界に土俗的な生命力がほとばしっている。タイトルとなっている「森の掟」とは、1950年の岡本太郎の有名な作品にもあるが、国家権力への批判であったそれとはまったく異なり、昔話のようにユーモラスでどこか懐かしさを感じさせる大作である。

(藪田 淳子)



山口文化協会賞

ほむら
「炎」

厚見 啓子



題の「炎」は「ほむら」と読むようです。「ほむら」の意味は、比喩的に恨み・怒り・嫉妬などで心中が燃えることとありました。

制作者の心の中の熱く強い思いが、生き生きと躍動的に一枚の作品の中に十二分に表現された作品です。

大きな紙面の中の構成の妙、大字と小字のバランス、温かく弾力のある豊かな線質等、確かな技術が表出した力作です。

(生田 照代)

おごおり文化協会賞

「^{あざな}糾う日々」

菅野 智文

モノクロームで表現され、日常の空気感が丁寧に捉えられている。カーテン越しの穏やかでやわらかな光は、洗濯物などのシルエットとあわさり、心地よい空間を構成している。特筆する点としては、プリントを一定の間隔でカットして織り上げていることだ。写真を手仕事で再構築したことにより、日々の気づきを丁寧に紡ぐような微妙な感触が伝わってくる。写真表現の楽しみ方を、仕上げの工夫も交えて提示した巧妙な作品である。

(倉田 研治)



令和3年度山口市美術展覧会受賞者一覧

賞	部門	作 品 名	作者氏名 (敬称略)	年齢
大 賞	絵画	ねが 願う	むらた けんじ 村田 賢二	71
準大賞	彫刻	まわ 廻る	おおつか だいすけ 大塚 大輔	22
山口市教育委員会賞	絵画	もり おきて 森の掟	いおか よしとも 井岡 義朋	79
山口文化協会賞	書	ほむら 炎	あつみ けいこ 厚見 啓子	61
おごおり文化協会賞	写真	あざな ひび 糾う日々	すがの ともふみ 菅野 智文	45
奨励賞	絵画	パズル	おおつか のりこ 大塚 則子	74
//	絵画	Everything	むらおか しげお 村岡 繁雄	59
//	絵画	しあわ 幸せのいろ	いなもり のぞみ 稲森 希実	20
//	絵画	すいちゆうていえん たいよう せんりつ 水中庭園・太陽と旋律	ゆうむらとしこ	62
//	写真	はるとお 春遠からじ	おかもと こういち 岡本 公一	75
審査員特別賞	絵画	プロティア	ふじい ゆ か こ 藤井 由佳子	81
//	絵画	ひび きいせい 響き—再生へ	ときうら みちこ 時浦 道子	80
//	絵画	ぼっ か てき ふうけい 牧歌的な風景	つちや ひろこ 土谷 寛子	38
//	絵画	な はな きおく ふしのがわしゅうへん 「菜の花」の記憶(榎野川周辺)	はせがわ しょうこ 長谷川 章子	61
//	書	と ほ し 杜甫詩	おおした しのぶ 大下 忍	46

※年齢は3月6日現在

※奨励賞、審査員特別賞は、部門別、作品番号順